

手縫糸の糸をはじく回数による考察

三重短大 伊藤 五子

目的 手で縫製する際、糸をはじくことが古くから行なわれてきている。前報では糸をはじくことによって、糸の物性にどのような影響を与えるかをしらべるため、被験者に、常に糸をはじいて使用している者（経験者）と、はじかない糸を使用していた者（未経験者）をランダムに選出し、被験者間およびはじいた糸とはじかない糸の糸の太さ、撚り数、伸長率、見かけのヤング率などを比較したところ、経験者と未経験者とでは多少の差がみられた。今回は糸をはじく回数が糸の物性におよぼす影響について検討を行なった。

方法 試料には数種の縫い糸を用い、はじく回数を1回、3回、5回、10回、20回とした。試料の見かけの太さ、撚り数、荷重伸長曲線などを測定、はじいた回数による比較検討をこころみた。

結果 縫い糸は、はじくことにより糸の物性に変化がみられた。はじく回数による影響は、撚り数には差がなく、切断時の伸長率および見かけの太さにはわずかに差がみられ、見かけのヤング率については、はじきの回数5回程度までは、はじく回数による有意の差はみられるようであるが顕著な傾向はみられなかった。